

仕事以外でも仲間と楽しもう!

趣味の会紹介

東京ローヤーズ

浅岡 知俊 (63期) Tomotoshi Asaoka



東京弁護士野球クラブ（東京ローヤーズ）は、東京三会合同の軟式野球チームである。部員数は実働数で30名程度、時折顔を見せる選手も含めれば所属部員は50名以上いる。

活動の中心は、毎年秋に開催される日弁連野球全国大会に向けた戦いである。東京ローヤーズの毎年の最大の目標は、この日弁連野球全国大会での優勝である。日弁連野球全国大会は、全国を4つに分けたグループで予選を行い、これを勝ち抜いた7チームに開催地チームを加えた8チームが、2日間にわたるトーナメントで戦う。開催地は毎年異なり、日本全国各地にわたる。これまで大会が実施された球場も、各地のドーム球場（大阪ドーム、ナゴヤドーム、福岡ドーム、札幌ドーム、西武ドーム）を始め、プロ野球でも使用されるような各開催地の主要球場である。そんな華々しい大会で、か


つては東京チームが圧倒的な強さを見せていた。しかし、近年では東京以外の弁護士会の野球人口も急増し、戦力はかなり拮抗している。東京チームもここ10年で優勝は4回であり、強豪には変わらないが、かつてのような絶対的な強者ではなくなっている。だからこそ弁護士野球は年々面白くなっている。

現在のチームの実働選手の年齢層は、20代後半から40代半ばくらいまでが中心である。ただ、中には70代後半でなおレギュラークラスの活躍をしている選手もいる。それだけ聞くと、弁護士野球の野球のレベル自体はそれほどでもないのではと考える者もいるかもしれないが、そうでもない。

弁護士会同士の試合以外にも、平常時は関東草野球リーグ大会の土曜大会1部に登録している。土曜大会は1部から3部まで実力順に分かれており、1部には企業チ

ームや他の区民大会などでもトップグループに所属している強豪チームが名を連ねている。その中ですら東京ローヤーズは実力的に中位から上位のあたりにいる。選手の多くは、

高校、大学まで硬式野球を経験してきており、中には甲子園や神宮で活躍した選手もいる。個々の選手の能力としても、軽々と柵越えの本塁打を放つ打者や強豪相手に年間5割を超える通算打率を叩き出す打者もいれば、未だに130キロ台後半の直球を投げる投手もいる。その中で70代後半の投手が颯爽とマウンドに登場し、強豪チームの強打者達を見事にねじ伏せていく姿は、まさに現代の神秘である。その姿を拝めるといっただけでも、東京ローヤーズの活動に参加する意義は十分にある。

とはいえ、東京ローヤーズは、絶対的な実力主義かというところではない。普段の練習試合などでは極力参加選手全員に出場機会が与えられるように配慮されている。また、部員同士の交流が活発で、コロナ禍以前は懇親ゴルフや飲み会なども盛んに行われていた。そこから大きな仕事に繋がるということも珍しくない。男女問わず、野球ができるかどうかにかかわらず、とりあえず野球が好きなのであれば是非参加してもらいたい。そこにきっと新たな出会いが待っている。是非一度ご連絡を。 

入部希望の方は、MASSパートナーズ法律事務所 (E-mail: asaoka@masslaw.jp) までご連絡ください。



日弁連野球全国大会で優勝を目指す東京ローヤーズ